

星 里香子 置賜総合支庁長

これまでのキャリアパス

昭和62年度入庁

一般級

東南置賜地方事務所、農業経済課、教育委員会総務課、
人事委員会事務局総務課

係長級

人事委員会事務局総務課、障害福祉課

主査級

置賜総合支庁企画振興課、置賜総合支庁農業振興課

課長補佐級

置賜総合支庁福祉課、置賜総合支庁地域振興課、
子育て支援課

課長級

村山総合支庁子ども家庭支援課長、
危機管理課復興・避難者支援室長、子育て支援課長

次長級

農林水産部次長、置賜総合支庁保健福祉環境部長

部長級

置賜総合支庁長(R5から現職)



——若手職員の時、感じていたことやこれまでの経験を振り返って特に印象に残っていることを教えてください。

東南置賜地方事務所税務課に配属されて以降、本庁と置賜勤務がほぼ半々で、地域振興や子育て支援、福祉、農林などの分野を経験してきました。

それぞれの職場で様々な方々の出会いがあり、そのつながりに支えられて、これまで仕事をしていたらと感じています。まだまだ女性役付職員が少なかつた頃、障害福祉課で係長として部下を持ったときは、女性であることでたよりないと思われていないかとか男性部下への接し方に悩んだときもありましたが、協力しながら仕事を進めていく中で次第に意識しなくなり、その後は役職があがってもほとんど性別は意識しないで仕事をしていたように思います。印象に残っているのは、置賜総合支庁で市町の職員やNPO、住民の方々と連携して行った仕事です。

例えば、企画振興課時代に、映画「スウィングガールズ」のロケが置賜であり、地域の有志

で「スウィングガールズおきたま応援隊」を組織し、ロケ地巡りやフラワー長井線「スウィングガールズ列車」、
「東北学生音楽祭」など様々なイベントを行いました。

福祉課時代には、子育て支援団体の皆さんと一緒に「おきたま子育て応援ガイド」の作成や子育て支援のイベントを行いました。置賜地域に初めての子育て施設が川西町にできる際に、川西町からの申し出もあり、置賜全体で利用できる枠組みとなるよう調整しました。

どれも、県だけではできないことで、地域の皆さんと連携してできた取り組みだったと思います。



——困難な状況下にあったとき、どのように乗り越えてきたかを教えてください。

仕事上の困難な状況というのは、個人で乗り越えられるものではないと考えています。あくまでも、組織としての対応であり、一人で抱えるものではないわけですが、その中でも、いかに組織の中で課題に対する意識を共有し、組織外の関係者ともコミュニケーションを図りながら、打開策を探るかかと思えます。そうする中で、解決の糸口が見えてくることがあると思います。

令和2年に県内初の養豚場での豚熱が発生した際、知事をトップとした本部が立ち上がり、本庁では農林水産部と防災くらし安心部、現場では庄内総合支庁を中心に対応しました。マニュアルはあったものの初めてのこと、手探りの状態で、混乱した部分も多々ありました。全庁あげての応援と市町や関係団体の方々の御協力をいただき、無事防疫処理を終了できました。

個人的には、2年前農林水産部次長のときに、病気が見つかり、手術とその後の治療が必要になりました。当時の部長をはじめ、部の皆さんには大変ご迷惑をかけましたが、温かい励ましの言葉もいただきました。職場の理解と家族の支えのおかげで、今は普通に生活できて

います。

——現在、仕事をしていて思うことや心掛けていることを教えてください。

社会や環境の変化が非常に激しく、私たち県職員の仕事も大きく変わってきていると感じます。いままで経験したことのない事態に直面することもこれからさらに多くなるように思っています。

それでも、基本は変わらず、関係者の声をよく聞き、手を携えながら課題解決に向けて、少しでも前に進めようという姿勢が大切だと思っています。

そして、私の今の仕事は、職員一人ひとりが仕事にやりがいを感じる働きやすい職場を作ることです。変化の大きい時代だからこそ、いろいろな意見を交わしながら、方策を考えていく、風通しの良い職場にしたいと思っています。

——自身のワーク・ライフ・バランスの推進について実践していること、仕事と家庭生活の両立について心掛けていること、プライベートの過ごし方を教えてください。

家事は相当手抜きなので、仕事と家庭生活の両立が果たしてできているのかという気がしますが……。2歳ずつはなれて息子が3人いて、子どもが保育園時代は、同居している両親に保育園の送迎を頼み、



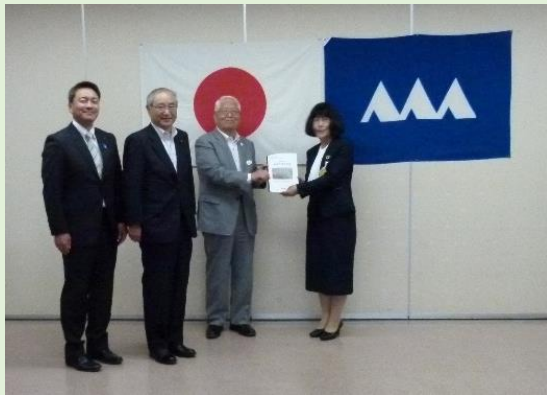
～「電動モビリティ地域共創コンソーシアム」
設立調印式～

それ以外にも相当助けられました。それでも、プライベートは子ども中心の生活で、いつもバタバタしていました。

子どもが高校生までは、置賜総合支庁に配属していただいたので、子どもたちの世話や送迎なども比較的しやすく、スポーツや部活の「おっかけ」が趣味のような生活でした。

今は、子どもたちは手が離れましたが、その一方で両親が高齢になり、介護や通院介助が必要になってきて、お休みをいただくこともしばしばあります。

両親が行っていた農業を息子が継いでいて、息子の手伝いで、休日はもっぱら田んぼやりんご畑で農作業をしています。



～ 市町等重要事業要望 ～

また、趣味というと、若いころから、草月流のいけばなを習っていて、華道展に出瓶もしています。草月流のいけばなは、とても自由で、のこぎりやドリルも使います。一般にイメージされる「いけばな」とはギャップがあるかもしれません。その時々のお花や場との出会いがあつて、無になつて自分の表現を探りながら、お花に向かい合う時間が自分にとってとても大切だと感じています。

——管理職の魅力ややりがい、今後の目標があれば、教えてください。

ステージが上がることに、見える景色が変わります。

管理職になると、自分が業務を行うのではなく、部下の意見をまとめながら、施策を作り上げ、みんなで実行することになります。もちろん責任が重くなりますが、自分の思いを施策に反映しやすくなり、やりがいも大きくなります。

支庁長になつて、これまでよりも格段に担当分野が幅広くなり、様々な方々とお話する機会もいただき、学ぶこと、考えることが多くあります。

これからも、部下の皆さんの声をよく聴いて、働きやすい環境づくりをしなければと思つていますし、地域の声に耳を傾け、地域の課題解決に向けてみんなで取り組んでいきたいと考えています。



～休日の様子～
華道展にて

——後輩女性職員へメッセージをお願いします。

女性管理職がほんの少数だった時代、先輩女性職員は「後に続く女性職員のために」とがんばってくださいました。そのがんばりがあつて今があるわけですが、今は「女性だから」と気負う必要はありません。

女性活躍の流れもあつて、いろいろな仕事につくことになると思いますが、与えられた仕事は、尻込みせず、かつ、肩の力を抜いて取り組んでほしいと思います。やってみると、なんとかなるものです。そして、その一つ一つの仕事が皆さんの力になります。

そして、自分自身を大切にしてください。自分のことは後回しにしがちですが、健康が一番です。家庭のことも含めて、困ったときは、遠慮せず、助けを求めてほしいですし、ほかの人が困っているのに気づいたら寄り添ってほしいと思います。

これからの新しい時代、皆さんがいきいきと、のびのびと、活躍されることを期待しています。

